C3	2113000
	担当部署
C3	生化

検査オーダー

患者同意に関する要求事項		特記事項なし
オーダリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*1.頻用→
	2	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→免疫・自己抗体→
	3	
	4	
	5	
検査に影響する臨床情報		特記事項なし
検査受付時間		8：15～16：00

検体採取・搬送・保存

患者の事前準備事項	特記事項なし
検体採取の特別なタイミング	特記事項なし

	検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	10 青	分離剤	8	mL
2	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-

検体搬送条件	室温
検体受入不可基準	1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体
保管検体の保存期間	冷蔵・2 週間(追加検査については、検査室に要問合せ)

検査結果・報告

検査室の所在地	病院棟 3 階　中央検査部
測定時間	当日中～翌日
生物学的基準範囲	73-138mg/dL 日本臨床検査標準化協議会　共用基準範囲
臨床判断値	設定なし

基準値				単位	mg/dL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
73	138	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし

パニック値	高値	設定なし
	低値	設定なし
生理的変動要因		特記事項なし
臨床的意義		C3(補体第 3 成分,)と C5(補体第 5 成分)は，古典/レクチン経路および第 2 経路の合流点に位置する蛋白で，互いによく似た構造をもち，多くの補体系特有の重要な生物活性に直接かかわる補体成分の中心的蛋白である. 検査の目的として、補体活性化の有無程度およびその活性化経路を知る，　またC3あるいは C5 の欠損症かどうかを知ることなどを目的として測定される. 通常は，血清補体価(CH50)あるいは ACH50(補体第 2 経路活性化にかかわる補体成分の活性を一括して測定する方法)が低値の場合．低補体血症解析のために測定されることが多い. 日本臨床第 7 版　5,2009,64-66